

Face to Face

TICOは徳島発！保健医療・農村開発などの分野で、アフリカ・アジアで支援活動を行っている国際協力NPO法人です。

地球規模の問題に苦しむ人たちの自立支援を共同作業により実施し、そこで学んだ経験と知識を地域の人々とわかち合い、私たち自身のライフスタイルを振り返るとともに、地域の精神文化の昂揚に寄与することを目的としています。

TICO 季刊ニュースレター

No.46 2017年1月号

カンボジア便り

高松市、公益社団法人セカンドハンドと協力して実施しているカンボジア国の救急医療体制構築支援について、報告します。

p.2-3

TICOの仲間紹介

TICOの正会員であり、現在ザンビアでボランティア医師として活躍されている三好医師をご紹介します。

p.3

国内活動紹介

2月に国内で開催予定のイベントをご紹介します。

p.4



TICOの専門家も助言して作成したテキストを使って応急手当を学ぶ子どもたち（カンボジア国スヴァイリエン州の小学校にて。2-3ページ参照）

カンボジア便り

渡部 豪（保健医療専門家）

スヴァイリエン州において研修参加者との記念撮影



目覚ましい経済成長の一方で

カンボジアは現在、急速な経済成長下にあります。街を通る人々の服装や持ち物を見ても、走っている車を見ても、10年前とは比べものにならないくらい新しく高価なものとなっています。一方で、政府・行政の機能はこれに追いついておらず、必要なインフラや社会保障等の制度の整備は遅れています。長く内戦や混乱が続いた中で、医師や弁護士、教師といった専門職が殺害されたり逃亡したりしたため、10年くらいこうした専門職種がない空白の年代があることも影響してきました。

経済成長と社会制度整備のアンバランスさのあおりを受けている分野の1つが保健医療です。日本のような医療保険制度がない保健医療分野は、国際機関やNGO等の援助に頼ってきた歴史が長い等の要因も重なり、他分野に比べても政府の改善への動きは遅々としているように感じます。目覚ましい経済成長からすると信じられないくらい、医療機関の機材や薬品の整備、そして人材の訓練において停滞している状態にあります。

中でも救急医療は特に遅れが目立っています。交通事故の急増、食生活の変化による心臓病や脳血管疾患の増加をはじめ、救急医療に対するニーズは急激に高まっています。しかし、救急搬送にしても救急時の初期対応にしてもごく一部でしかまともに実施されていないのが現状です。

カンボジアの救急医療を強くする！

こうした状況を踏まえ、2008年からTICOではカンボジア国の救急医療体制構築の支援のために、日本人専門家の派遣、カンボジアの医療従事者を日本に招いての研修、そして最低限必要な資機材の提供等を行ってきました。この3年間は、JICA草の根技術協力事業によって高松市が行う（実施主体：公益社団法人セカンドハンド）救急医療活動拠点づくりの事業に、専門家を派遣してきました。この事業は2017年2月までとなっております。いよいよ総まとめの時期にきています。

事業は主として、ベトナムとの国境に位置するスヴァイリエン州を対象としています。この地域は工業団地を抱え、近年救急

搬送を必要とするケースが増えてきています。事業において目標としているのは次の3つです。

- 1) 救急医療を指導できる人材（研修における指導能力、カリキュラム作成能力のある人）が養成されること。
- 2) スヴァイリエン州において公的な救急搬送サービスが開始され、救急初期対応が可能な公的医療施設が5施設以上に増えること。
- 3) 住民に応急手当のワークショップを行い、理解・実践できる人が1,000人養成されること。

これらの目標達成のため、今年度は4月にカンボジア国から4人の医師を日本に招へいして、技術指導とともにリーダー研修を行いました。また、8月は久保洋一医師が、11月には久保医師と渡部がカンボジア現地に赴き、1) 資機材の管理状況のチェック、2) これまでの復習を含む、資機材の使用法の指導、3) 救急医療技術習得に関する実地試験、4) カンボジア現地の指導者による指導方法の評価と還元、5) カンボジア現地のリーダーが主導する技術指導研修会への立ち会いと指導、6) カンボジア現地におけるラジオを使った住民への啓発活動への助言、7) スヴァイリエン州救急医療体制構築に関する行動計画への助言などを行いました。



▲ 交通事故患者に対する屋外での対応の訓練の様子
・（上記活動2と4）

専門家が確認した主な成果としては、

- 1) 救急患者搬送用担架等必要な資機材が供与され、救急車及び病院の救急初療室での救急医療が実施できるようになったこと
- 2) カンボジア人医療従事者が資機材の使い方を習得し、使用方法の指導も自分たちで行うことができるようになったこと
- 3) リーダーとなる医師たちが自らの手で技術指導研修会を企画し、運営することができるようになったことが挙げられます。



▲ 救急患者への固定道具の使用方法を確認している様子

一方、まだ医療機関によって提供できる救急医療のレベルの差があること、資機材の管理方法が十分理解できていない医療機関や医療従事者も残っていること等が課題として残っています。2017年1月に、最後となる現地への専門家派遣を行い、これらの課題を少しでも解消できるよう努めます。

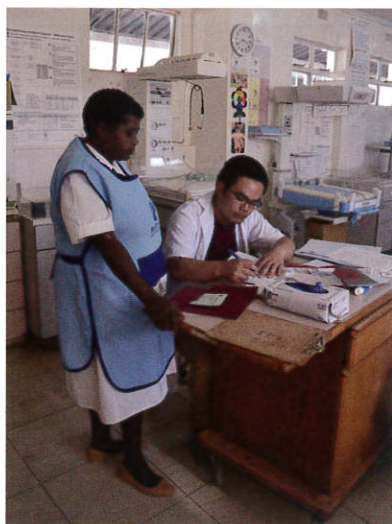
事業終了後の活動内容は未定ですが、引き続き、スヴァイリエン州をはじめとしたカンボジア国の救急医療体制構築の支援を、何らかの形でやっていこうと検討しております。これまでのご支援に心より感謝いたします。今後ともよろしくお願い致します。



▲ 日本での研修の一コマ。ケーススタディをしている様子

ザンビアからご挨拶～TICOの仲間紹介～

皆様はじめまして。ザンビア南部ジンバ・ミッション病院で医師として働いている三好康広です。1983年生まれ、現在33歳です。長崎大学医学部を2009年に卒業し、医師としては8年目を迎えました。



▲ 看護師に指示を出す三好先生（右）

ザンビアに来ることになったきっかけは？

大学時代にバックパッカーとしてアジアやアフリカを旅し、途上国の悲惨な現状を目の当たりにしたことにあります。それ以降、将来医師としてこれらの地で役に立ちたいと思うようになりました。アフリカ地域の医療現場で、特に感染症、外傷、産科のニーズが高いと判断し、初期研修を2年終了後、国内で内科1年、整形外科1年、産婦人科にて3

年間学び、経験を積みました。2015年10月にTICOの代表理事である吉田先生と初めてザンビアを訪問し、ザンビアで働くことを決意しました。

ザンビアの職場の様子を教えてください。

2016年5月にザンビアに移住し、ザンビアの医師免許を取得するべく筆記・口頭試験を受けました。無事合格した後、6月から1ヶ月間は首都ルサカにあるザンビア大学病院で研修を受けており

三好康広さん（医師）

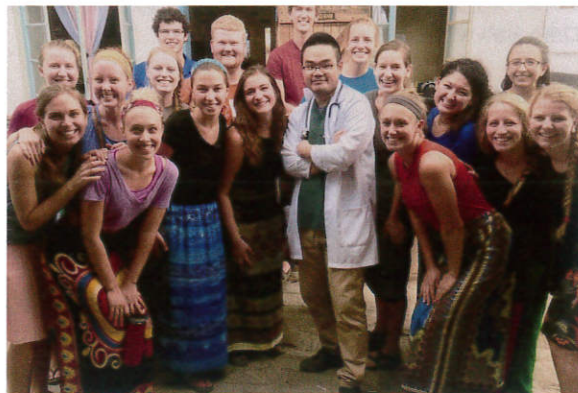
TICOの正会員。2016年5月にザンビア国に渡り、現在同国南部州の病院にてボランティア医師として活躍中。

ました。7月から現在の病院で働いています。

私が働いている病院は周囲の人口33万人をカバーし、132の入院病床を擁する病院です。常勤医師は4人、外国人は私一人だけです。私は主に産婦人科の患者さんを診ていますが、週1回総合外来で、老若男女問わず全ての患者さんの診察にあたっています。産科は特に忙しく、1ヶ月の分娩件数が約150件！（私が以前働いていた長崎の医療機関では年間約650件でした）帝王切開が約30件あり、その管理を任されています。夜間もほぼ毎日急患で病院から呼び出しがあり、大変ですがとてもやりがいを感じています。日本と違い、できる検査や治療も限られているので、その中で日々思考錯誤しています。

一言メッセージをお願いします。

昨年11月には、テレビ東京の「世界ナゼそこに？日本人-知られざる波乱万丈伝-」の密着取材を受けました。1月23日放送です。ザンビアの現状を少しでも身近に感じていただけたら嬉しいです。



▲ アメリカから実習に来ていた看護学生への指導も行いました。

国内活動紹介

第24回 ワン・ワールド・フェスティバル（大阪）出展！

2月のイベント出展と当日のボランティア募集のお知らせです。

2月4-5日（土/日）に大阪市北区扇町公園で開かれる西日本最大の国際協力のお祭り『ワン・ワールド・フェスティバル』にTICOもブースを出展します！TICOは北区民センターにて、活動紹介とザンビア雑貨等の販売を行います。関西近辺にお住いの皆様、是非是非お誘いあわせの上、お立ちよりくださいませ！



また、当日ブース運営を手伝っていただけるボランティアの方も絶賛募集中です！1-2時間程度でも、空いている時間で販売を手伝っていただける方、準備や後片付け等を手伝っていただける方がいらっしゃいましたら、是非一度TICO事務局までお問い合わせください（連絡先：info@tico.or.jp/0883-42-2271）。

第10回 フリーデンスフェスト（鳴門）出展！

2月19日（日）には徳島県鳴門市ドイツ館にて開かれるチャリティーイベント『フリーデンスフェスト』にも、昨年に引き続き出展します！地元徳島県の皆様と直接触れ合える大切な機会として、TICOをご存じの方も、そうでない方も、多くの方々とお会い出来ることを楽しみにしています。

こちら、当日ブース運営を手伝っていただけるボランティアの方を大募集しています！お問合わせはTICO事務局まで（同左）。皆様のご参加を心よりお待ちしております！



▲ 昨年の様子（アート作品の作成）



<2月講演会のお知らせ>

*2月2日（木）高松市ホテルパールガーデン 15:00～16:30（14:30より受付）

演題：『アフリカの現状とTICO/さくら診療所の取組み～地球温暖化とパリ協定、そして日本企業に求められる世界への貢献～』

発表者：吉田（代表理事）

*2月18日（土）鳴門市賀川豊彦記念館 13:30～15:30

演題：『TICOの活動と私』

発表者：国金（事務局）

どちらも参加費無料です（18日は入館料として大人200円が必要です）。是非ご参加下さいませ！

*TICOの会員になってください！

会員となって資金面からもTICOの活動をサポートして下さる方を募集しています。会員の方には、TICOニュースレター“Face to Face”を毎月お送りいたします。

年会費

賛助会員 個人	¥12,000
学生	¥6,000
団体	¥15,000
正会員	¥12,000

※通常は賛助会員でのご入会をお願いしています。総会での議決権を持つ正会員を希望される方は事前にご連絡下さい。

入会ご希望の方は、年会費を郵便振替にてお支払い下さい。郵便局備え付けの振替用紙で、次の口座へお願いいたします。

口座番号 01640-6-37649

加入者名 TICO

ご住所・ご氏名（フリガナ）・お電話番号の他に、Eメールアドレスもお持ちでしたら通信欄にお書き添え下さい。

なお、ゆうちょ銀行自動引き落とし、クレジットカード払いも可能です。詳しくはホームページをご覧になるか、下記までお問い合わせ下さい。



TICOニュースレター Face to Face 第46号
2017年1月発行 発行人：吉田 修
編集：国金 さつき

*ご寄付をお待ちしております！

団体の運営、活動を支える、皆様からの大切なご寄付。団体に対する寄付につきましても、引き続きご協力をお願い申し上げます。

郵便振替 — 01640-6-37649（加入者名）TICO

銀行振込 — 四国銀行 山川支店（店番号344）

普通 0199692

特定非営利活動法人TICO

代表理事 吉田修

カナ入力の場合は、トクヒ）ティコ

クレジットカード — ホームページをご覧ください。

募金箱 — さくら診療所（徳島県吉野川市）に常設しています。

インターネット — TICOウェブサイトのバナー広告をクリックして、そこからお買い物していただくと、代金の一部が寄付されます。詳しくはホームページをご覧ください

書き損じハガキ — ご自宅に年賀状の書き損じ、余り等はありませんか。ございましたら、是非事務局までお送りくださいませ。

特定非営利活動法人 TICO 事務局

〒779-3403 徳島県吉野川市山川町前川120-4

電話：0883-42-2271（平日 9:30～18:30）

メール：info@tico.or.jp / ホームページ：www.tico.or.jp

フェイスブック：www.facebook.com/ticohq

ブログ：blog.goo.ne.jp/tico_blog